

## おわりに

今までたくさんの遊び方が出てきました。繰り返しになりますが、この遊び方の順序は、決して不動のものでもなんでもありません。子どもの親しみやすいものから順を追ってならべてみただけのことです。子どもの興味、関心が高く、ゆかいに楽しめそうな遊びからドンドン入っていきましょう。

また、一応、お母さんと子どもが“一対一”で遊べるような形を前提に遊び方を例示してみましたが、兄弟、親戚、近所の子どもたちも一緒になって、人数を多くして遊ぶときにも、遊びの基本パターンは同じことですから、ちょっと応用してやってみてください。なかには、複数で遊んだ方が楽しく、効果的な方法もたくさんあります。競い合うおもしろさが、ゲームの楽しさを倍加するというわけです。

いずれにしても、これらのゲームを“勉強”と考えてはいけません。できる、できないを気にしたり、子どもに要求することは絶対に避けてください。そのかわり、子どもが“できたら”心からほめてやりましょう。一日わずか時間でも、子どもにとって、こうした親との共同の遊びは、

何よりも楽しく、何にもかえがたい経験となるでしょう。

さあ、今から、子どもと一緒に、「漢字で遊ぶ」おもしろさを味わってみてください。

(構成・双柿舎 協力・梅島幼稚園 / かわい学園 / ひかり幼稚園)